

苫小牧市立清水小学校学校便り

清水の子



『未来を創造する
清水の子の育成』

◇学びを広げる子
◇思いやりあふれる子
◇たくましさみなぎる子

TEL 33-7285

Eメール simizu-es1@hokkaido.schooled.jp
第 4 号 平成 29 年 7 月 26 日発行



毎日がドラマ

校長 一谷 浩之

朝、子ども達を迎えるために校門前にいると毎日毎日小さなドラマが展開されるのです。子ども達は燦々と生きている力を発揮して成長しているんだと言うことを感じます。

(この「生きる力」については去年の学校便りに書きました。本校のHPで見ることができます。平成28年9月号表)

朝の挨拶もそこそこに「校長先生、卵焼きは好きですか？」と第一声を掛けてくる子がいました。登校中、歩きながら何を考えていたのか想像できます。「好きだよ」と答えると満面の笑み。「やったー！」と声を上げながら玄関まで走って行きます。

「おはようございます」の挨拶の後、黙って私に四つ葉のクローバーを手渡してくれた子がいました。「ありがとう」とお礼を言うと一番の笑顔を返してくれました。そのクローバーは校長室のドアにセロテープで貼っておいた後、押し花にして校長室の机上に飾ってあります。

私を見つけると遙か遠くから大きな声で挨拶をする子がいます。「元気が良い。」と一度褒められてから、ずっと続けています。褒める言葉の力はすごいですね。打てば響く子の力もすごい。

最近、中3のお姉ちゃんが小1の子を連れて登校してきたことがありました。かわいい妹を玄関までどころか、教室の前まで送り届けてくれました。かわいい妹がべそをかいていたので心配になって付いて来てくれたとのこと。安心した1年生の顔と頼もしい中3の姉の姿が忘れられません。「お姉ちゃん立派！いい家族だ。百点！」

8時ぎりぎりチャイムの音を聞き、突然走り出す子がいます。私はその態度を褒めます。時間を守ろう。急ごうという気持ちの表れです。「その急ごうという気持ちが立派だ！百点！」

私の前で立ち止まり、私の顔をしっかりと見て、丁寧に辞儀をして挨拶をする子がどんどん増えてきています。心のこもった丁寧な挨拶です。美しい立ち居振る舞いです。この挨拶は3年前一人の男の子が始めたものでした。あまりにも立派だったので、全校朝会でそのことをみんなにお話したことがありました。その日以来、良いことをまねする子が増えてきたのです。

毎日の小さなドラマなのですが、このドラマが子ども達を成長させていると確信しています。日々の生活が子ども達を成長させているのです。この子らの未来が楽しみです。この子らの未来を皆さんと共に見守っていきたいと感じる毎日です。